

平成30年度

岩手県商店街実態調査報告書

概要版

令和元年5月

岩手県商工労働観光部経営支援課

1 商店街実態調査について

(1) 目的

商店街組織の活動実態や商業環境等の現況を把握し、商店街振興施策立案の基礎資料とすることを目的に実施。

(2) 調査概要

商店街振興組合（23）、事業協同組合（17）、任意団体（106）の計146団体（前回、平成27年度調査では153団体）を対象に、平成30年9月1日現在の状況を調査票記入及びヒアリングにより調査。

2 調査結果（総論）

ア 本県の商店街は、商店街数の減少や、来街者数の減少、空き店舗の増加など、厳しい状況にある。

イ 商店街の当面の問題は、「商店街利用者の高齢化」、「経営者の高齢化・後継者難」、「商圈人口の減少」が上位を占め、この傾向は前回調査と同様であり、引き続き大きな課題となっている。

3 調査結果の主なポイント

(1) 商店街の概要

ア 法人化している商店街の数は、前回（平成27年度）調査と比べて2団体減り、任意団体も5団体減った。（図表1）

（図表1）商店街数の推移

調査年度	組 合 組 織					任意団体		合計	
	商店街振興組合		事業協同組合		合計	実在数	回収数	実在数	回収数
	実在数	回収数	実在数	回収数	実在数				
平成21年度	30	27	26	26	56	—	102	—	155
平成24年度	25	24	21	20	46	—	115	—	159
平成27年度	25	24	17	16	42	111	108	153	148
平成30年度	23	21	17	14	40	106	84	146	119

※1 商店街振興組合、事業協同組合についてはそれぞれ岩手県商店街振興組合連合会、岩手県中小企業団体中央会の調べにより、任意団体については各商工会及び各商工会議所の調べによる。

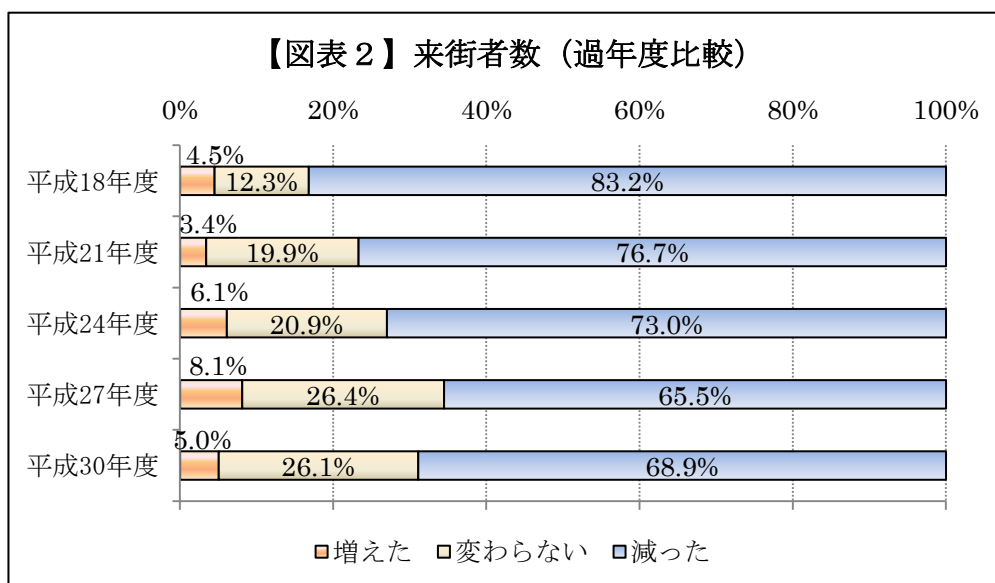
2 調査対象団体数を実在数として平成27年度分から記載している。

イ 1商店街当たりの平均店舗数は31.2店（前回33.8店）、うち空き店舗数は4.7店（前回4.5店）であった。

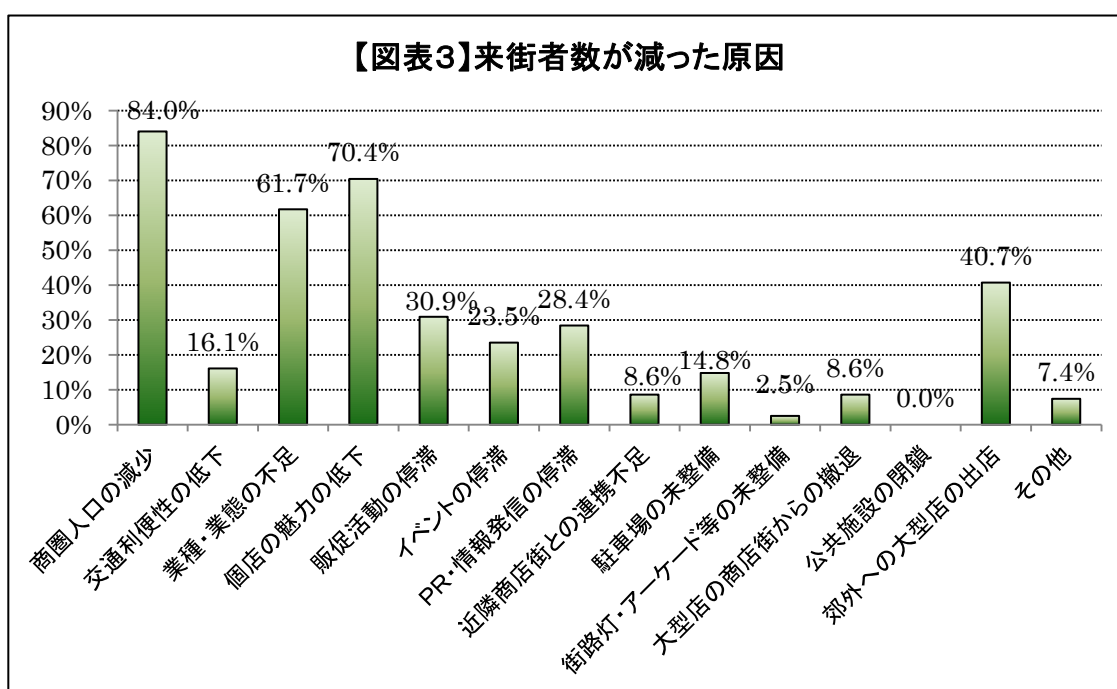
ウ 商店街の業種別店舗数は、「小売業全体」で 38.1%であり、次いで「サービス業（飲食を除く）」が 23.2%、「飲食店、飲食サービス業」が 19.7%であった。

(2) 商店街への来街者の状況について

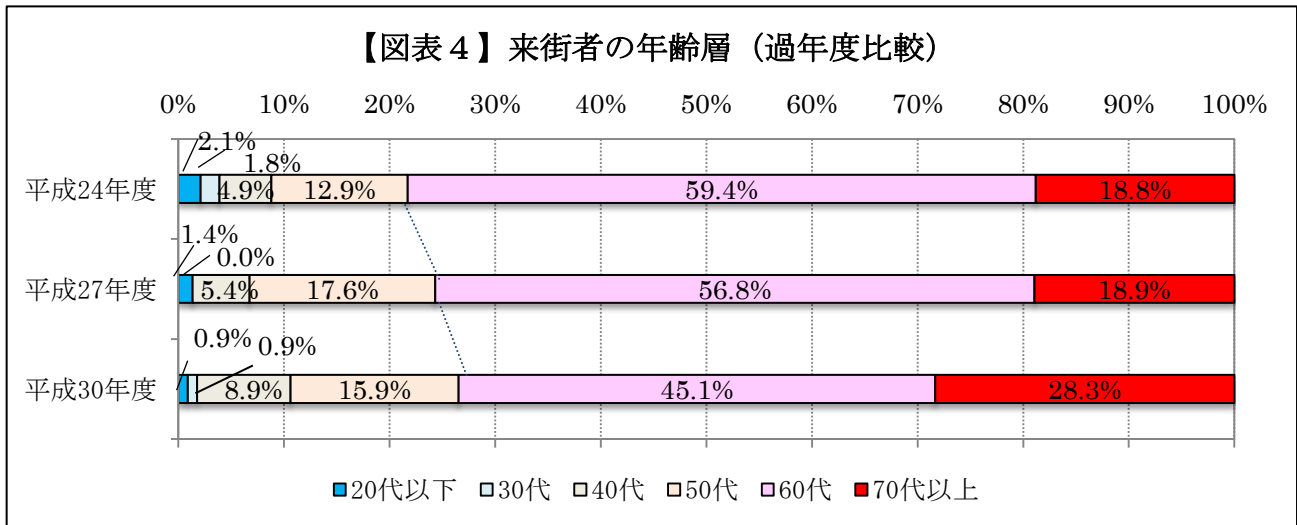
ア 3年前と比較した来街者数は、「増えた」と答えた商店街が 5.0%（前回 8.1%）、「減った」と回答した商店街は 68.9%（前回 65.5%）であった。（図表 2）



イ 来街者が減った要因は、「商圈人口の減少」（84.0%）、「個店の魅力の低下」（70.4%）、「業種・業態の不足」（61.7%）が上位を占めた。（図表 3）

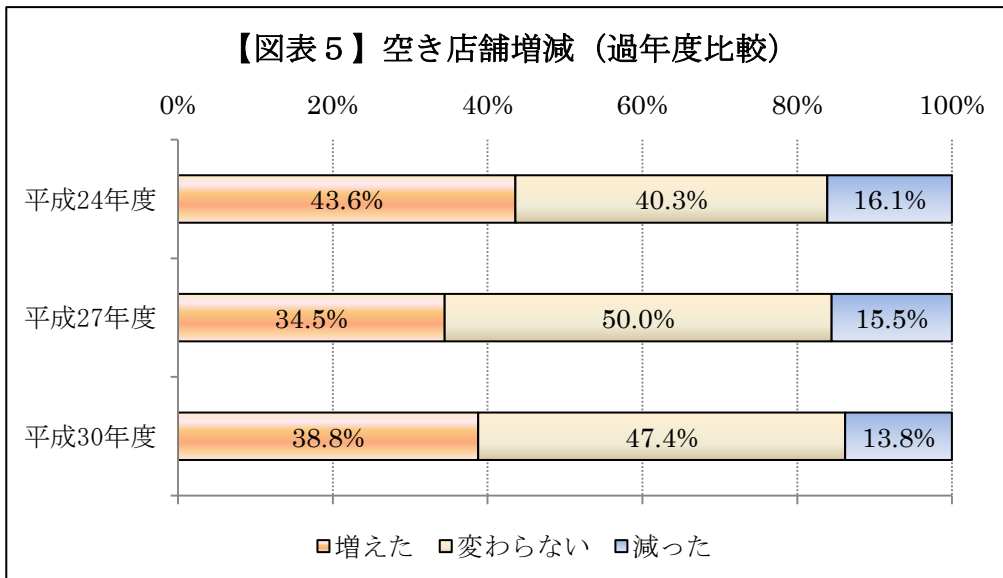


ウ 来街者の最も多い年代は、「60代」（45.1%）と回答した商店街が最も多く、「70代以上」と合わせると73.4%となる。（図表4）



（3）空き店舗について

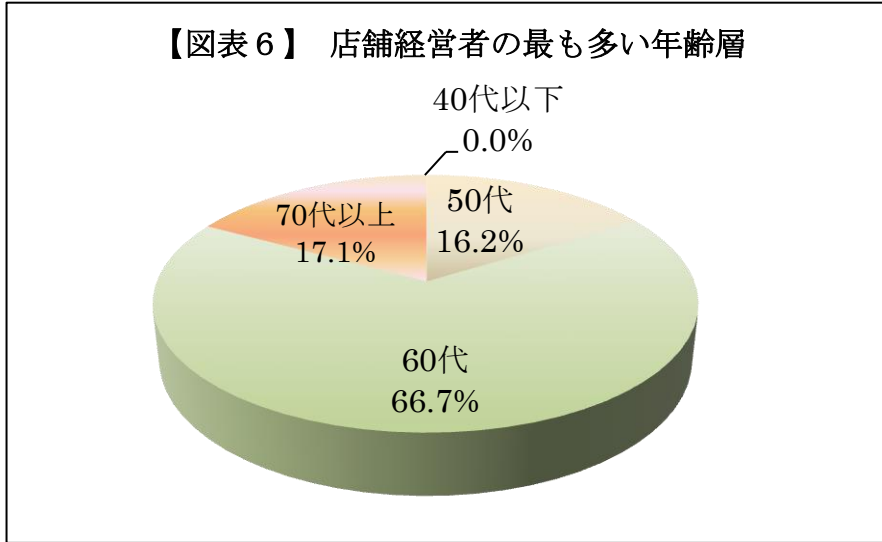
ア 3年前と比較した空き店舗数は、「増えた」が38.8%（前回34.5%）、「減った」が13.8%（前回15.5%）であった。（図表5）



イ 空き店舗が解消されない主な理由は、「家主に貸す意思がない」及び「店の補修・改修ができない」が同率（43.4%）で最も多かった。

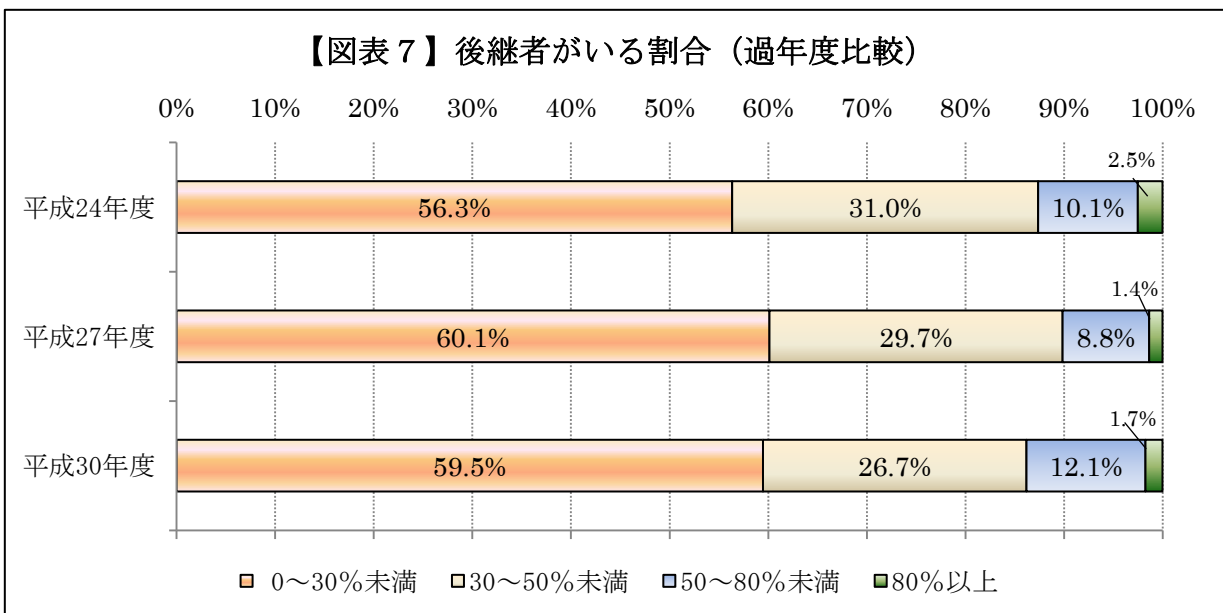
(4) 店舗経営者及び後継者について

ア 店舗経営者の最も多い年代は、「60代」(66.7%)と回答した商店街が最も多く、「70代以上」と合わせると83.8%であった。(図表6)



イ 後継者がいる割合は、「0～30%未満」と回答した商店街が59.5%（前回60.1%）、「80%以上」と回答した商店街が1.7%（前回1.4%）であった。

「50～80%未満」と「80%以上」の計は13.8%であり、前回と比較すると3.6ポイント増加している。(図表7)



(5) 次世代リーダーについて

次世代リーダーが「いる」と回答した商店街は50.5%（前回45.9%）であった。

(6) 商店街活動について

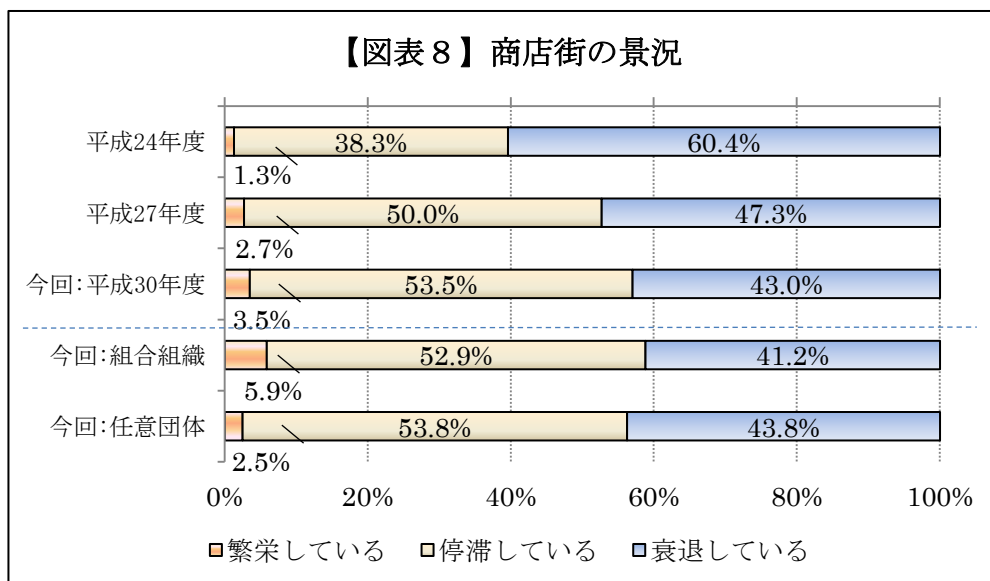
ア 共同売出し事業を行っている商店街は29.6%（前回33.8%）、集客イベントを1回以上実施している商店街は53.6%（前回58.1%）となっており、それらの事業の集客効果は、「かなりある」が10.5%（前回12.2%）、「ある程度ある」が53.7%（前回57.8%）であった。

イ 地域住民のニーズに応じた活動は、実施している商店街が34.2%（前回42.6%）であり、取組内容は「にぎわいの創出」が67.6%、「高齢者支援」40.5%、「防犯」が29.7%で、上位を占めている。

ウ また、買い物弱者を支援する商店街活動は、「ニーズがあり、実施している」商店街が7.9%であった。

(7) 商店街の景況について

最近の景況は、「繁栄している」と答えた商店街が3.5%（前回2.7%）であった。（図表8）



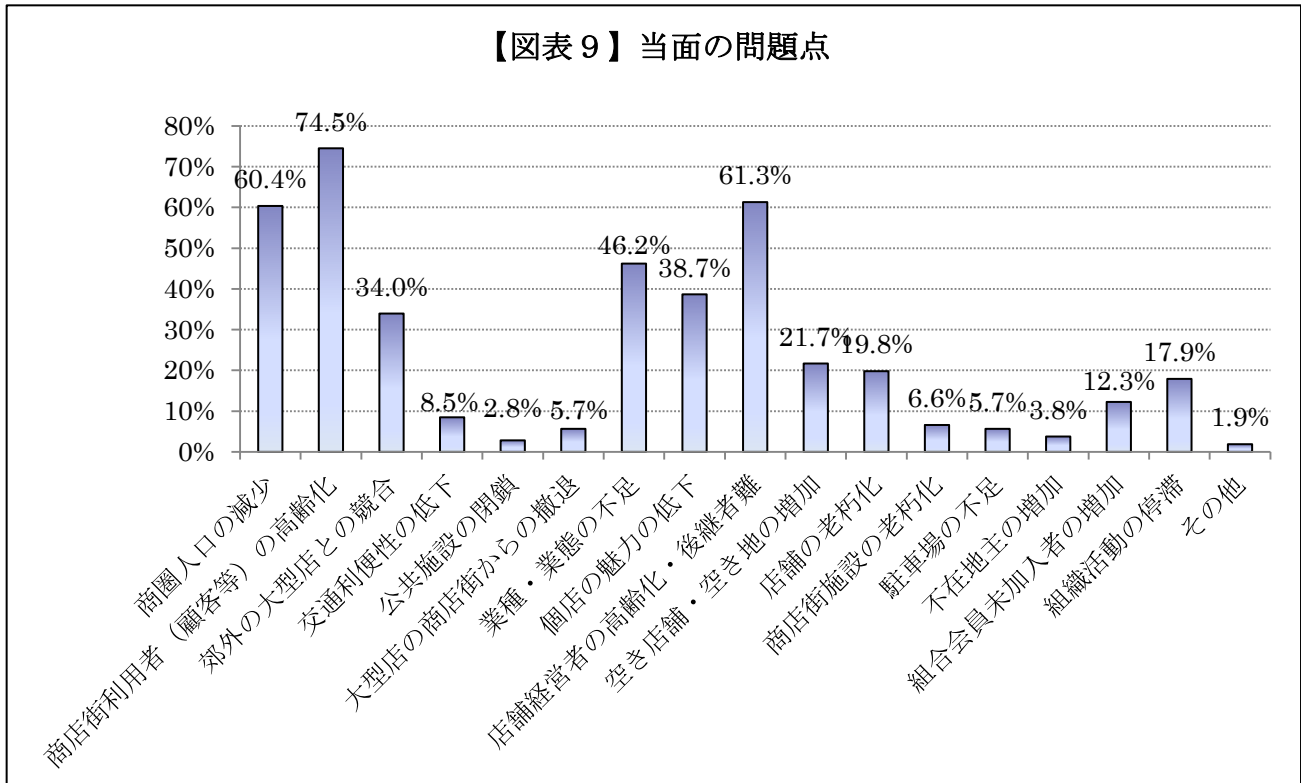
(8) 商店街の強み・弱み

ア 商店街の強みについて尋ねたところ（複数回答）、「地域密着型であること」が66.0%で一番多く、次いで「顧客とのつながり」55.7%、「立地条件」35.9%となっている。

イ 商店街の弱みについて尋ねたところ（複数回答）、「店舗の数」が59.1%で一番多く、次いで「店舗の多様性」52.7%、「商店街でのイベント」23.6%となっている。

(9) 商店街の当面の問題点について

商店街の当面の問題点は、「商店街利用者（顧客等）の高齢化」（74.5%）、「店舗経営者の高齢化・後継者難」（61.3%）「商圈人口の減少」（60.4%）が上位を占めた。（図表9、10）



(図表10) 当面の問題点（前回調査との比較）

今回（平成30年度）		前回（平成27年度）	
①商店街利用者（顧客等）の高齢化	74.5%	①商店街利用者（顧客等）の高齢化	69.6%
②店舗経営者の高齢化・後継者難	61.3%	②店舗経営者の高齢化・後継者難	67.6%
③商圈人口の減少	60.4%	③商圈人口の減少	59.5%
④業種・業態の不足	46.2%	④個店の魅力の低下	45.9%
⑤個店の魅力の低下	38.7%	⑤業種・業態の不足	41.2%
⑥郊外の大型店との競合	34.0%	⑥郊外の大型店との競合	34.5%
⑦空き店舗・空地の増加	21.7%	⑦店舗の老朽化	25.0%